

- トヨタ自動車、ハリアー等計11車種について、横滑り防止装置(VSC)およびボディに不具合があるとしてリコール
対象車種はVSCの不具合が、「ハリアー」「RAV4」「RAV4 PHV」「MIRAI」「ランドクルーザー」・レクサス「NX350h」「NX450h+」「LS500h」「LX600」で8万7609台。ボディの不具合はレクサス「NX250」「NX350」「NX350h」「NX450h+」で3419台。そのうち2867台は両不具合が対象となるため、リコール対象車は2020年4月28日～2022年4月4日に生産した合計8万8161台
VSCについては制御プログラムが不適切なため、VSC機能オフ状態でブレーキペダルを踏んだままシステム停止後に再始動すると、機能オン状態に復帰しない。そのため、オフ表示灯が点灯し、VSCが作動しないおそれがある。改善措置として、全車両、ブレーキアクチュエータ用制御コンピュータのプログラムを対策仕様に修正する。ボディについては、エンジンルーム内のショックアブソーバ取付部付近において、溶接設備の設定が不適切なため、当該部位に溶接が行われていないものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると亀裂が生じ、最悪の場合、走行安定性を損なうおそれがある。改善措置として、全車両、ショックアブソーバ取付部付近の溶接有無を点検し、ない場合は溶接する。また、当該部位に損傷が認められた場合は、補修を行う。
- トヨタ自動車、「シエンタ」ハイブリッド車のエンジンに不具合があるとして再リコール 2015年5月7日～2022年3月12日に生産した25万9991台
2019年6月26日に同様のリコールを、2015年5月7日～2018年9月3日に製造された13万7016台を対象に届け出ていたが、新たに原因が判明したため、対象を拡大し届出した。
エンジンルーム後部に取付けているカウルルーバの防水構造が不適切なため、経年で防水性が低下し、多量の雨水がかかった場合、水がエンジンのインジェクタ取付け部から燃焼室に侵入することがある。そのため、コンロッドが変形して異音が発生し、最悪の場合、エンジンが破損する恐れがある。
- 日産自動車、「セレナ」e-POWER車について走行不能になるおそれがあるとしてリコール 2019年7月12日～2022年1月19日に生産した7万8964台
ビークルコントロールモジュールの制御プログラムが不適切なため、特定の道路、かつ走行条件において発電用エンジンを始動する際、燃料が残っていても燃料切れと判定することがある。そのため、出力をとめるフェールセーフ制御が作動し走行不能となるおそれがある。
- いすゞ自動車、「エルフ」・日産「アトラス」・マツダ「タイタン」について、エンストしてしまうおそれがあるとしてリコール
2019年6月3日～2021年5月29日に生産した6万2387台。修理で対象となる部品が組付けられたエルフ136台および組付けられた車両が特定できない部品10個も対象
エレクトロニックドライブユニット(EDU)の電気回路が不適切なため、車両の電装部品から発生する電気ノイズによりEDUが誤作動することがある。そのため、エンジン警告灯が点灯し、最悪の場合、エンストに至る恐れがある。

